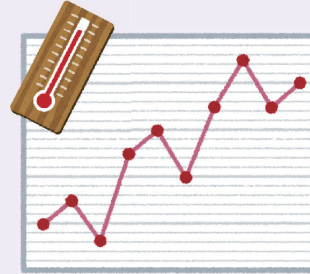


今のペースで地球温暖化が進むと静岡県の未来はどうなるの？

■21世紀末(2076~2095年)には、20世紀末(1980~1999年)と比べ...

- ▶年間の「猛暑日」は22日程度、「真夏日」は64日程度増加
- ▶「1時間降水量50mm以上の雨」の回数は、約2倍増加
- ▶年間の「雨の降らない日」は、約8日増加



■農林水産業

- ▶米、ワサビ、ミカン、茶などの品質低下の恐れ
- ▶藻場が衰退する磯焼けの発生

■自然生態系

- ▶高山植物の衰退、ニホンジカやイノシシの分布拡大による農林産物や自然植生への影響

■自然災害

- ▶局地的豪雨などによる浸水被害、土砂災害などの発生リスク増加

■健康・経済・都市生活

- ▶熱中症リスクの増加、デング熱などを媒介するヒトスジシマカの分布域拡大、電力ピークの先鋭化

*静岡県の気候変動(静岡地方気象台)、静岡県の気候変動影響と適応取組方針(静岡県)から抜粋

牧之原市ができることはなんだろう？

脱炭素社会に向け、市民や事業者と一丸となって取り組む 「ゼロカーボンシティ」宣言をしました



詳細は市ホームページで確認できます

2021(令和3)年1月に「ゼロカーボンシティ」を宣言した杉本市長



なぜ、私たち市民・事業者も取り組まなければならないの？

衣・食・住・移動など、私たちが普段の生活の中で消費する製品・サービスのライフサイクル(製造、流通、使用、廃棄などの各段階)において生じる温室効果ガスは、**全体の約6割**を占めています。

私たちが、生活の中でちょっとした工夫をしながら、無駄をなくし、環境負荷の低い製品・サービスを選択することで、こうしたライフスタイルに起因する二酸化炭素削減に大きく貢献することができます。



できる
ことから
始めよう!

暮らしを脱炭素化するアクション ~ゼロカーボンシティ実現に向けて~

気温の上昇や大雨の増加、自然災害の増加など、気候変動は、私たちの生活にさまざまな影響を与えています。今、身の回りでのどのような環境の変化が起きているのか。今後どのようなことが起きる可能性があるのか。

今後、今まで以上に気候変動に脅かされることになるのか否かは、私たちのこれからの行動にかかっています。いつまでも豊かで暮らしやすい日々を送るために、暮らしを脱炭素化するアクションを、できることから始めましょう。

問い合わせ 環境課 永野敦嗣 ☎③2609

今、日本では地球温暖化によってどんな影響が出ているの？

*「おしえて!地球温暖化」(環境省ホームページ)から抜粋

暑熱による死亡リスク、熱中症

- ▶熱中症搬送者数や死亡者数が増加傾向。救急搬送者のうち65歳以上の高齢者が半数近くを占める
- ▶死亡者の多かった2010年と2018年は記録的な高温の日が続いた



豪雨の頻発、台風の強大化

- ▶短時間強雨や大雨の増加に伴い、土砂災害・水害の発生頻度が増加
- ▶農地に不要な水が溜まる^{たんすい}湛水被害の増加

水産業

- ▶日本海でブリ、サワラの漁獲量が増加する一方、スルメイカが減少

農業

- ▶水稲=高温による品質の低下
- ▶果樹=リンゴやブドウの着色不良、ウンシュウミカンの浮皮や日焼け、日本ナシの発芽不良などの発生

水供給(地表水)

- ▶激しい雨の回数は増える一方で、年間の降水の日数が減少
- ▶渇水が発生し、毎年のように取水制限が行われている

自然生態系

- ▶野生動物の分布の変化(ニホンライチョウの生息域減少 ⇄ 東京湾に南方系魚類)
- ▶サンゴの白化現象



高温によるリンゴの着色障害
(写真提供:農研機構 果樹研究所 杉浦俊彦氏)
*全国地球温暖化防止活動推進センターホームページより
(<http://www.jccca.org/>)



住まい

- 24 太陽光パネルの設置
- 25 ZEH（建て替え、新築時は、高断熱で太陽光パネル付きの「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」を選択）
- 26 省エネルギーフォーム（窓や壁などの断熱リフォーム）
- 27 蓄電池（車載の蓄電池も含む）・省エネ給湯器の導入・設置
- 28 暮らしに木を取り入れる
- 29 分譲も賃貸も省エネ物件を選択（間取りと立地に加え、省エネ性能の高さで住まいを選択）
- 30 働き方の工夫



移動関係

- 22 スマートムーブ（徒歩・自転車・公共交通機関で移動／急発進・急停車をしないエコドライブ）
- 23 ゼロカーボン・ドライブ（再エネ・ゼロカーボン燃料とEV/FCV/PHEV）



環境保全活動

- 21 植林やごみ拾いなどの活動（団体・個人による地球温暖化対策行動や地域の環境保全活動への参加と協力）

清掃活動へ参加
しましょう



どのような取り組みをすればいいの？

地球温暖化の主な原因は、温室効果ガス濃度の上昇です。温室効果ガスの一つである二酸化炭素は、石油などの化石燃料が燃焼することで発生し、さまざまなところから排出されています。例えば、家庭からは照明や電化製品、ガス、自動車、ごみを燃やすことなどで排出されています。国では令和3年に、日常生活における脱炭素行動と暮らしにおけるメリットを「ゼロカーボンアクション30」として、次のとおり整理しています。皆さんも、できることから取り組んでみましょう。



買い物

- 08 脱炭素型の製品・サービスの選択（環境配慮のマークが付いた商品を選ぶ）
- 09 個人のESG投資（「ゼロカーボン宣言」「RE100宣言」など地球温暖化対策に取り組む企業を応援）



ごみを減らす

- 01 使い捨てプラスチックの使用をなるべく減らす／マイバッグ、マイボトルなどを使う
- 02 修理や修繕をする（長く大切に使う）
- 03 フリーマーケット・シェアリング
- 04 ごみの分別処理（「分ければ資源」を実践する適正な分別）



食関係

- 10 食事を食べ残さない
- 11 食材の買い物や保存での食品ロス削減の工夫（食べきれぬ量を買う／工夫して保存し、食べられるものを捨てない）
- 12 旬の食材、地元食材で作った菜食を取り入れた健康な食生活
- 13 自宅でコンポスト



衣類・ファッション

- 05 今持っている服を長く大切に着る
- 06 長く着られる服をじっくり選ぶ（先のことを考えて買う）
- 07 環境に配慮した服を選ぶ（リサイクル・リユース素材を使った服を選ぶ）



ごみの適正な分別を
しましょう



エネルギーの節約や転換

- 14 再エネ電気への切り替え
- 15 クールビズ・ウォームビズ（気候に合わせた服装と適切な室温設定）
- 16 節電（不要なときはスイッチを切る）
- 17 節水
- 18 省エネ家電の導入（省エネ性能の高いエアコン・冷蔵庫・LED照明の利用、買い替え）
- 19 宅配サービスをなるべく1回で受け取る（宅配ボックスや置き配、日時指定の活用）
- 20 消費エネルギーの見える化（スマートメーターの導入）



省エネ家電購入の際は「統一省エネラベル」を参考に！

「牧之原市創エネ・省エネ・蓄エネ推進事業費補助金」を創設しました

市では本年度から、ゼロカーボンシティの実現に向け「省エネルギー住宅」の新築または改修、**長期優良住宅**への「家庭用リチウムイオン蓄電池」（同時設置の場合は「太陽光発電システム」も含まれます）の設置を行う場合に、補助金を交付します。

補助対象および補助額

①省エネルギー住宅（新築・改修）

【補助額】 市内業者が工事を行う場合は、最大10万円。
（市外業者が工事を行う場合は、最大8万円）

*省エネルギー住宅とは、建築物の省エネルギー性能を表示する第三者認証制度「BELS」の評価において「ゼロエネ相当」と表示された戸建住宅をいう。

②家庭用リチウムイオン蓄電池

【補助額】 蓄電容量1キロワット当たり2万円。市内業者が工事を行う場合は、最大10万円。
（市外業者が工事を行う場合は、最大8万円）

③家庭用リチウムイオン蓄電池と太陽光発電システムの同時設置

【補助額】 発電量1キロワット当たり1万円。市内業者が工事を行う場合は、最大5万円。
（市外業者が工事を行う場合は、最大4万円）

①～③共通

- （1）市内に居住しているまたは居住する予定の人で、市税などの滞納がない人が対象です（別荘は対象外）。建築・改修、設置工事は、補助金の申請年度内に着手し、完了してください。
- （2）同一目的の他の国庫補助金などを受ける場合は、対象外です。

申請方法など

補助対象設備などの設置に関する工事に「着手する前」に、市環境課へ交付申請書などの提出が必要です。詳細は、市ホームページでご確認ください。



市ホームページ

